

小児外科

1. スタッフ（平成21年4月1日現在）

科長（教授） 前田 貢作
 医局長、外来医長（講師） 田辺 好英
 病棟医長（病院助教） 馬場 勝尚

2. 診療科の特徴

日本小児外科学会認定施設

<学会専門医>

日本外科学会 指導医、専門医：前田貢作
 専門医： 田辺好英
 日本小児外科学会 指導医、専門医：前田貢作
 専門医： 田辺好英
 日本消化器外科学会 専門医： 前田貢作
 日本がん治療認定医機構 暫定教育医： 前田貢作
 Pacific Association of Pediatric Surgeons.
 Active member：前田貢作

3. 診療実績

- 1) 外来患者数、紹介率
 外来患者数：470人／月
 （うち新来患者数65／）
 紹介率：74.7%
- 2) 入院患者数：587人（2008年1月から12月）
 （平均48.9人／月）
- 3) 手術患者数：554人（2008年1月から12月）
 （うち新生児手術数：37人）

手術症例病名別件数

病名(または手術名)	総数	病名(または手術名)	総数
鼠径ヘルニア(類縁疾患含む)	182	ヒルシュスプルング病(根治)	5
C V挿入・抜去	72	腫瘍摘出・生検術	5
停留精巣(固定術)	54	肺切除術	5
急性虫垂炎	31	包茎手術	5
皮下腫瘍(摘出術)	23	消化管重複症	5
人工肛門造設・閉鎖		リンパ管腫(硬化療法)	5
臍ヘルニア	18	イレウス解除術	4
胃食道逆流症(噴門形成術)	16	鎖肛根治術	4
漏斗胸	13	肥厚性幽門狭窄症	4
(ラビッチ術1)	4	気管切開術	4
(ナス術5)	33	その他	33
(バー抜去7)	19	内視鏡(上部・下部)	19
ヒルシュスプルング病(生検)	13	内視鏡(気管)	19
腹膜炎手術	10	内視鏡的胃瘻造設(PEG)	5
卵巣腫瘍(腫瘍・嚢腫)	8	計	554

新生児手術件数

病名(または手術名)	総数	病名(または手術名)	総数
鎖肛(人工肛門造設)	6	気管切開術	2
ヒルシュスプルング病(生検)	6	C V挿入術	2
腸回転異常症(Ladd手術)	5	横隔膜ヘルニア	1
十二指腸狭窄	3	皮下腫瘍	1
食道閉鎖根治術	3	臍腸管手術	1
鎖肛(根治術)	2	胆道拡張症	1
ヒルシュスプルング病(根治術)	2	総排泄腔	1
肥厚性幽門狭窄症	2	計	37

4) クリニカルインジケター

死亡症例：該当なし

5) カンファランスなど

- (1) 小児外科での症例カンファランス（毎日：朝と夕）
- (2) 小児科とのカンファランス
 小児血液・腫瘍カンファランス（火曜日）
 小児消化管カンファランス（木曜日）
- (3) 小児科、産科とのカンファランス
 周産期カンファランス（月曜）
- (4) 放射線科とのカンファランス
 小児放射線カンファランス（月曜）
- (5) 小児外科系医師、看護師とのカンファランス（適宜）
- (6) 他大学小児外科とのカンファランス
 栃木県小児外科症例検討会（年2回）
 関東小児外科症例検討会（年2回）

4. 事業計画、来年の目標

1) 小児外科スタッフの充実

久田正明（平成13年琉球大卒、病院助教）が沖縄県に戻るため、スタッフの人員が一時的に減少する。後期研修医として辻 由貴（平成18年久留米大学卒）が新メンバーに加わり、柳澤智彦（平成11年本学卒、長野県後期研修医）は義務年限の残り2年終了後に本学復帰の予定である。また、他大学からの小児外科専門医をめざす若い先生方をリクルート中である。新臨床研修制度のもと、卒後1年目、2年目（J1、J2）の先生方が多数ローテートしてくれ、また外科後期研修医（S1）の先生方も外科専門医取得に必要なカリキュラムをこなすため、3ヵ月程度のローテーションをしてくれているので、常時7-9名のチームで医療を行なう事ができている。

2) 学生教育

現在、2年生、5年生、6年生の講義と5年生の必

修BSL、選択BSLを行なっている。特に選択BSLはじっくり小児外科を実習してもらえるので、希望者が多く、抽選の上8名程度の学生が3～4週間じっくりと実習をしている。将来自分の県に戻っても小児外科医療を続けてみたいという学生もあり、頼もしく思われる。

3) 臨床面での発展

とちぎ子ども医療センターに小児・先天性心臓外科、小児泌尿器科、小児整形外科、小児脳神経外科、の外科系全てのスタッフが整ったことにより、子どもの専門医療施設ということで県内各地はもとより、群馬、茨城、埼玉からも広く患者様が集まるようになってきている。小児外科医療は本センターが最終医療機関であるとの周囲の理解が進んだ結果、多くの緊急症例を受け入れてもらう事ができている。小児外科の手術総数は2007年の471例から2008年度は554例とさらに増加することができた。結果として、大学病院の小児外科としては全国で2番目の規模の手術症例数となった。

小児の腹腔鏡下手術の増加に加えて、前田がこれまで専門としてきた小児の呼吸器外科疾患の手術も、先天性気管狭窄症に対する気管形成術、声門下腔狭窄症に対する喉頭気管形成術、小児の嚢胞性肺疾患の手術を手がけるようになった。これらの疾患は関東一円および東北地区からも紹介を頂き、医療圏の拡大につながっている。

4) 一流の小児外科施設をめざして

子どもにやさしい医療を基本理念に、高水準の外科治療を維持しながら、安全な小児医療の確立をめざして、さらに精進していきたいと考えている。